

第 1 回天理市総合教育会議 議事録

開催日時	平成 28 年 5 月 9 日 (月) 午後 3 時 30 分～午後 5 時 15 分
開催場所	天理市役所 4 階 特別会議室
出席者	並河市長、森継教育長、田中教育委員会委員、中嶋同委員、 名倉同委員、前川同委員
欠席者	なし
事務局	山中公室長、城内公室理事、加藤総合政策課長、 三喜田同課係長、桑原同課主査、巽同課主査
事務局側	藤井副市長、仲谷教育委員会事務局長、岡本同局次長、 吉岡学校教育課長、北林同課指導主事、 西岡教育総務課課長、土田同課係長、 吉本児童福祉課長補佐

◇会議次第

- 開会
- 市長挨拶
- 案件

1. 教育大綱の目標設定及び今後の進捗管理について
2. 今後のスケジュールについて
3. その他

◇資料

1. 席次表
2. 平成 28 年度 総合教育会議等スケジュール
3. 平成 28 年度 教育大綱目標・取組一覧表← A 3 資料 (内部資料)
4. 天理市教育大綱
5. 天理市教育大綱アクションプラン

<事務局 加藤>

予定時刻がまいましたので、平成 28 年度第 1 回天理市総合教育会議を開催させていただきます。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日司会を務めます総合政策課課長の加藤でございます。どうぞよろしくお願いたします。

まずは、開会にあたりまして並河市長よりご挨拶を頂戴したいと思います。市長よろしくお願いたします。

<並河市長>

それでは、皆様方ご多忙のところまた、足元も悪い中ご参集いただきまして誠にありがとうございます。28 年度の第 1 回のこの総合教育会議ということでございますけれども、昨年度皆様方の力を得て私ども教育大綱をまとめさせていただきました。それを、教育長の方から各学校・園の方に実際にどういった事をやっているかと言う事を投げかけていただきまして、それを集約した物がこちらになっているわけなんでございますけれども、その中で各校本当に熱心に取り組んでいただいている部分であったり、この中だけではちょっと文言が尽くされてない部分とか、色々お気づきの点もあろうかなというふうに思っております。教育大綱が作って終わりではなく、我々自身がしっかり横串を刺して何が進んでいるかなという事を把握させていただいて、上から何かその学校現場にものを言うという事ではなく、その中でこれは他の校・園にとっても非常にためになるいい形やなというようなものについて、お互い学び合うというような流れをしっかりと作っていくことが一番大義なんじゃないかなというふうに思っております。今日の限られた時間でございますが、よろしくお願したいと思います。

■案件 1. 教育大綱の目標設定及び進捗状況の集約について

<事務局 加藤>

はい。ありがとうございます。それでは、案件のほうに入っていきたいと思ます。それでは、案件の議事進行に関しましては、並河市長のほうにお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

<並河市長>

ちょっと冒頭どんな事でまとめて、どういったところに強調点を置いているのかは、事務局から説明してもらえますか。

<事務局 三喜田>

失礼します。昨年度 1 月 22 日に行われました前回の総合教育会議でお示しさせていただきましたお手持ちの様式によりまして各学校、幼稚園、保育所また、庁内の各所管

におきまして、大綱に示されました各項目実現に向けた目標その他取組についてご報告いただきまして、4月の人事異動に伴う修正を経たうえで、お手元の一覧表にまとめさせていただいております。一覧表の枠の都合上、提出されました報告書の文言につきましては、一部手を加えたところがございますけれども、概ね提出された通りに掲載しております。本会議では、この一覧表を基に各項目、項目といいますのは、A3の資料で申しますと、一覧表の左側の「内容」というところに記載してございますもので、また、教育大綱の中では①や②などの番号がふられているものをさしておりますけれども、この一覧表の各項目につきまして、会議の中でご議論いただくとともに、その進捗を図っていくことになるわけですが、ご覧のとおりボリュームがかなりあるということでこの会議の場ですべてこの項目に対する取組について進捗を見ていくというのは非常に難しいということだと思います。そこで、事務局といたしましては、本会議で進捗を図るべき項目を一定数絞り込んだうえで、当該項目に対する目標の設定や取組状況についてご議論をいただき、また、ご意見を頂戴できればというふうに考えております。何に絞り込んで議論いただくかというのは、非常に難しい問題でございます。ただ、教育大綱の後ろから2頁目に記載されております、まち・ひと・しごと総合戦略との関係から人づくりと町づくりを繋ぐ重点施策といたしまして(1)から(4)の4項目でございます。この4項目につきましては、特出しをしてこの会議のなかで進捗を図っていただくとともに、ご議論を深めていただきたいと考えております。ただし、それ以外のいわゆる教育大綱には本体部分というべきテーマが(1)から(4)ありますけれども、それにぶら下がっております項目につきましては、何を重点項目として取り上げて議論いただくべきかというのは、事務局のサイドからでは決めるのは非常に難しいというところがございます。本日の会議も含めましてその各項目どれを重点的に取り込むかということをご議論いただきまして、重点取組というものを定めていけたらなあと考えております。ただ、今日の会議も90分という時間でございますので、どの項目がいいのかということをご議論を深めていただくなかで、最終事務局の方で重点取組の項目を決めさせていただいたうえで、次回以降の会議のなかで報告をさせていただくことを考えております。ご議論いただくその手掛かりといたしまして、A3の資料の中に所々太枠で囲まれているところがございます。これにつきましては、学校教育課に無理をお願いいたしまして、各学校等々で取り組んでおられる取組の中で、ちょっと進んでいるといえますか、特徴的な取組について太枠で囲まさせていただいて、アンダーラインを引かせていただいております。それも参考にしつつ今日の会議の場でご議論いただきたいと思います。事務局で考えておりますのは、項目の数ですけれどもやはり90分という会議でございますので、10項目ぐらいが限界かなというふうに勝手ながら考えておるところですが、大体それを目安に決めていきたいと考えております。以上です。

<並河市長>

吉岡課長、その心を。太線で囲んだんですね。

<事務局側 吉岡>

基本的にはどこの学校でもやっていることはそう大差はないんですけども、特色があるといったらあれですけども、進んでるとまではあれなんですけども、地域の特徴を活かして地域の方と連携してやっているかなというところを囲ませてもらったわけで、表現の違いでこんなんやっているよというのものもあるかも分かりませんが、一応そういうところで選ばせていただきました。また、細かなところでこれはどういうことやというのがありましたら、また説明させていただきます。

<並河市長>

ありがとうございました。今日の会議の終わりまでに全部決めきるのは難しいかなと思いますし、1回ぐらいは自由活発にあるいはちょっと質問したいというような部分があるかと思しますので、今日は、若干自由にご議論いただいて、それを基に次絞り込みをかけていければと。

教育長これは、一旦校園長会のほうで共有されたのでしたっけ。

<森継教育長>

資料を来月の校園長会でみていただこうと。

<並河市長>

来月の校園長会の時にそれをやって。ですから、ここである程度継続的にみていこうというようになったやつは、ぜひ他の校園の皆さんにも注目しながら参考にさせていただければという、ひとつのよすがになってくるのかなと思いますし、そういった趣旨でよろしいですね。何もそれのおりやれということではないけども、そのように工夫している仲間がいるというところだったり、あるいは、その項のなかでの一層の着実な取組を求めて行ったり、あるいは、この会議も場合によったら特に関心が出てきたところについては、その様子を見に行ったりとかですね、そういった事もやってもいいかなと思っております。教育長そういったことでよろしいですか。

<森継教育長>

はい。

<並河市長>

では、すいません。ちょっと上の方からみていきたいと思うのですが、その中でまずは、幼稚園のほうですね。うちの内部で話をしている時には、特に家庭教育の部分と幼保連携、体力あるいは子育て支援対策そのあたりについて、継続的によくみていきたいと話をしておったのでございますが、委員の皆様は今日が初見ですか。

<中嶋委員>

1 週間前に頂きました。

<並河市長>

1 週間前ですか。もし、1 週間お忙しかったと思うのですが、これは良いという取組じゃないか、ここはちょっと分からない、あるいは逆にここもうちょっと書き込んだらいいんじゃないか等ご指摘ございましたら、まずは、幼稚園の部分で上から、上からいくと時間がかかり過ぎますから、就学前の括りでいかがでございましょう。何かございますでしょうか。

<中嶋委員>

幼稚園の 1 / 3 の 1 頁目なんですけど、A 幼稚園の幼保連携の取組が書かれてまして、ここの 4 番に校長先生の講和、保護者対象であります。これは意外と他の幼稚園とかみたら無くてですね。実際イメージ小学校の校長先生が幼稚園の保護者の方に話す機会がそんなに今までなかったことだと。ところが、こういう事があることで幼稚園の保護者の皆さんにとっては、小学校は身近に感じますし、そこから直接うちの小学校ではこういうふうに 1 年生の迎え入れ考えていますよというお話を聞くことで準備が出来たり、親しみが沸きかなと思ったので、他の幼稚園でされてないようでしたら、これもクローズアップしていただいたらどうかなと。ただ、その是非というのを 1 回やった後に効果があったかどうかというのはみていく必要があると思うのですが、そこに私は注目をしました。

<並河市長>

これはA幼稚園以外はやってるんですけど。学校説明会の機会に。特にA幼稚園はこれに力を入れておられると。

<事務局側 吉岡>

たぶんこれは幼稚園まで出向いて行っているのかなと。自分から出向いて行ってそういう機会、入学前になるのかな、出向いて行って、保護者に小学校はこういう生活リズムですよと、こういうふうな事を入るまでに、おうちのほうでもやってみて下さいというような事を言っているのかと。来てもらって、説明会の時に保護者が小学校へ来て話をするのはどこもやっている事だと思います。幼稚園に出向いて行って、近いというのは、Aはありますが。

<中嶋委員>

ありますけど。これは、でも足を運ぶというのはすごく大きいと思います。校長先生が次の新 1 年生を迎えに来てくれているような、そういう親近感が親にしたらあるので

はないかと思えます。これはすごくいいなと思えます。

<並河市長>

というような感じのご指摘で結構でございますので、はい、その点はよく分かりました。ありがとうございます。いかがでございましょう。名倉委員。

<名倉委員>

はい。1 枚目の 2 番のB幼稚園の③ですけども、「子供が面白いと感じる素材をふんだんに用意するなど園内環境の見直しを実施」というのは、抽象的で分かりにくいなと思ったんですけども、具体的に何かありますか。

<事務局側 吉岡>

私も全部が全部分かっているわけではないのですが、季節によって教室のところに、そういう教室掲示にしても、どんぐりがね、秋になったら秋のものを並べたりとか、また、どんぐりを使って工作をしたりとか、そういうやりたくなるようなそういうものを手の届くところに置いておくと、子供達が、遊ぶ中で触ってやっていくという事で、そういう季節的なものをあえて意図的に教室に飾るということだと思えます。

<名倉委員>

今までにもされていた事ということだと思えますが・・・。

<並河市長>

特に何か工夫されている点があるという事であれば、この場で出たのをまさに質問という形で現場に聞いてみてください。

<並河市長>

視点としては、しっかりやれてればいいのでないかという、そういう事でよろしいですか。

<名倉委員>

はい。

<中嶋委員>

私はこれは逆にいいなと思うので線を引いていたのですが、大人とか先生が良いとか、おもしろいでしょというのではなくて、子供達が興味を持つというか、子供目線の方で考えましょうみたいな意図をされているのかなと。

<名倉委員>

園においても十分にこういう取り組みはされていると思いますので、

<中嶋委員>

されている事を書いているという事。

<名倉委員>

分かりました。

<並河市長>

④の目標や意欲等の持てるようにとか、自主性のところをちょっと強調している感じのものがたしかに並んでいますね、ここは。でも実際に何をやっているか調べておきましょう。いかかでしょうか。

<名倉委員>

(家庭教育の支援) B幼稚園の②、赤ちゃん広場という文言があるのですが、幼稚園の遊びにおいでよとか、いうので、赤ちゃんとかもちろん来られたりしていると思うのですが、赤ちゃん広場という文言とかは今まであまりないのですか。どうですかね。

<事務局側 吉岡>

地域の方が主になってやって下さっているようで、場所は幼稚園を提供するけども地域の方が来てそこに0歳の子供とかを連れて来たりして、お母さん達が来て日頃の子育ての悩みなんかをお話するという事で、幼稚園は、場所を提供しているという形で取り組みをやっていると聞いています。Y先生が中心になってやっておられます。

<名倉委員>

分かりました。ありがとうございます。

<並河市長>

というような感じで、掘っていくと色々ありますが、前川委員いかかでございます。

<前川委員>

はい。2/3、次の頁でもいいですかね。こないだC幼稚園の入園式に行かせていただいて、園長先生もその時にやはり芝生化の事は、お話をされていまして、保護者の方もかなり園庭の芝生化については期待もなされておられました。具体的にこうやって入ってきておりますので、すごく具体性があるいいなと思います。それと上の方の四角

の枠の中に芝生化についての地域の人との芝生苗植え、種まきの実施とありますので、これをうまい事やっていたら地域の方も負担に思わずにですね、そういった幼稚園のそういったことに関わっていくという地域の方の関わり方もうまい事伝えてくださったらいいのかなと感じます。

<並河市長>

コミュニティ作りのきっかけにうまく使ったらという事ですね。

今出てきているお話でいきますと、やはり地域の人とのコミュニケーションづくりにうまく使ったり、あるいは幼小とかいう場合については、どちらかがどちらかに向いて行ってしっかり繋がりをつくるような取組を皆さんからご意見頂く部分が多かったかなと思いますけども。そのあたりを重点的にみていくというのではいかがでしょうか、教育長。

<森継教育長>

いろんな視点が私達と違うということで参考にさせていただきました。やはり就学前教育というのは、県の方でも取組をやっておりますので、各委員が言われたB幼稚園の①とか②について子育て支援の保護者の方のとか、育て方について、悩みとかやっていきたいと思っています。

<並河市長>

赤ちゃん広場はいいですね。これは他やっていたりするのですか。

<事務局側 吉岡>

0歳まではたぶんやっていないと思います。未就学、3歳であったりとか、今度幼稚園にくるという子は、未就園児の登校で一緒に来ることはあると思いますが、0歳でという形でやっているのは珍しい。

<並河市長>

若干、創生の部分と重なってくるので、先走って言うと、この目の前の元休診の所を子育て支援センターにしたりするので、またそこの連携をしっかりとつuckingいかないといけない。あと、幼小の連携のところに、図書館の、D小学校については、幼稚園と保育所・園の皆さんも行けるようにするというのは、その中ではまったく狙いは同じなので、入る前から馴染みをしっかりと持たせようということで、しっかりとやっていきたいと思っております。

<中嶋委員>

B幼稚園の話聞いていてよかったなと思う事は、地域の方々が中心になっている事

で、すべて幼稚園の方ですというものでなく、場所を提供したり、機会をつくってそこに地域の方に入らせていただくという事が、市長もおっしゃるように、コミュニティに繋がるのですが、すごくいいなと思いますので、こういうのを全体でクローズアップして広げていただけたらなと思います。幼稚園でしようと思うと、準備が出来てから、じゃ始めます、考えていますとなってしまうと思うのですが、場をつくるというところで、それが地域の方なのか、愛護会の方なのか分かりませんが、そういう事をミックスと言いますか、併せて場づくりという事をしていただけたらなと。

<並河市長>

場づくりと地域というキーワードがでてきました。

(手元の一覧表では) 四角で囲って来ていますけども、キーワードで特にやっているやつを、ちょっとフォントを変えて目立たせてそれを他も共有できるような形でやりましょうか。ハイライトでもなんでも結構です。

3 / 3 頁までの内容に近づいてきたかと思うのですが、今の時点で3分の1の時間を経過しているので、小学校の方に移らせていただいてよろしいですか。

<委員一同>

はい。

<並河市長>

では、小学校の方でいかかでございますか。

<中嶋委員>

私が最初にいいなと思ったのは、1 頁目の A 小学校なんですけども、②の小1 プログラムのところで、出前授業を年3回以上すると具体的に回数を書いていることです。出前授業をやりましょうという事になると、出前授業をやる事が目的になって、年に1回できるかどうかという事になりかねないのですが、3回という事は、たぶん1回目にはこういう事をやって、2回目にはこういう事をやって、3回目にはこういう事をやりましょうということが、わざわざするのでなくて、当然のこととしてやっていくという印象を受けたので、すごく良いなと思いました。できれば負担というよりは、当然やる事として、すべての学校にとっていただきたいなと思いました。

あと、一覧表の書き方ですが、中学校区で物事を考えていくことが、義務教育はすごい大事なんじゃないかと思っていて、できたら小学校の記載順を、中学校区ごとにしていただきたい。そうすると、天理L中学校区の小学校とか、天理J中学校区の小学校とか塊になっていって9年、9年の中での6年、3年というのがみていけるのではないかなと、そういう事が連携にも繋がっていくので、細かい事ですがそういう事も考えていただけたらと。

<並河市長>

極めて重要なお指摘です。

<並河市長>

三鷹市は完全にそういうパターンですね。学校統合出来ないようなところで、9年間で流れをつくっていききたいところで、中学校区単位での流れを大事にされていたりする。

<中嶋委員>

中学校区単位と言いますと、中学校3年で仕上げるというか、こういう子供にしたいというのがあって、6年があって、就学前になるという感じになるかと。

<並河市長>

小学校の方に書いてあって、受け手の幼稚園の方に特に記載が無かったりするの、これは小学校の方が思い入れが強くて、来てる方にはどうなんでしょうか。出前教室だったら、幼稚園の方も載っているかなと思うと、幼稚園の方は特に載っていない。

<中嶋委員>

これは特に問題ないと思います。と言うのは逆に幼稚園に書いてあって小学校に書いてなかったら心配かなと思いますが、さっきの感覚で言うと、中学校は小学校に、小学校が幼稚園に行くとは積極的に行こうという思いがすると、それを拒否されることはないと思いますので。

<名倉委員>

そうですかね。校長先生の講和というA幼稚園を私もみていたのですが、A小学校にそうゆうのがないなと思いながら…

<中嶋委員>

出前授業の中に含んだ考え方なのかもしれないですけどね。

<並河市長>

ちょっとそこは整理していきたいと思います。連携ものが続いていますけど、他の点も含めていかがでございましょう。

<名倉委員>

小学校の2頁のB小学校の本のところですね。「新しく購入する図書を発達段階に合わせて低中高に分け、各学級に1週間ずつ宅配便として届けます。」ってこれは、やは

り与えられる、自分で読みたい本は読みたい本、そして向こうから与えられる本として提供してもらったら、子供の興味をもっと膨らんでいいなと思ったんです。質問ですが、こういうやり方というのは、B小学校だけですか。

<事務局側 吉岡>

これは私が6年前にB小学校にいた時にやっていたのですが、本の宅急便という名前を付けたんです。図書室に並べているだけでは、なかなか子供が新しい、特に新刊本が分からないので、新しく買った本は、低学年向き、中学年向き、高学年向きとダンボールに入れて順番に1週間経ったら次の教室次の教室と送っていくという形で、ちょっとでも子供達の手の届くところに数多くの本を置きたいというような事があって、当然、学級文庫の本もあるんですけども、学級文庫の本は1年間ずっと同じ本が入ってたりして、なかなか変化がないので、読んでしまったらつまらないという事になって、図書館に足しげく通う子はいるのですが、なかなか行かない子は、本に接する機会がないし、週に1回読書タイムっていうのをやっているわけなので、子供達が本を探すのに選べる一つのツールとしてやっています。他にも形を変えてやっている学校はあると思います。あえて、こういうネーミングを付けてやっているのは、B小学校だけかなと思います。

<名倉委員>

はい。なかなかこの取組はいいなと思うし、「宅急便」というネーミングは、なかなかいいなと思いました。

<並河市長>

これは運営は誰がされているのですか。

<事務局側 吉岡>

図書委員です。

<森継教育長>

図書委員って先生ですか。

<事務局側 吉岡>

子供です。先生も一緒になってやります。

<並河市長>

子供自身もやっている。

<事務局側 吉岡>

5, 6 年の図書委員。それと年に何回かB小学校ですけども図書委員が読み聞かせにまわる。子供自身が読み聞かせにまわる。

<並河市長>

高学年が低学年に。

<事務局側 吉岡>

はい。昼休みとかに集まって練習をして、読み聞かせにまわる。他の学校もやっているとします。

<並河市長>

それは良さそうな感じですね。それを積極的に書いているのはここぐらいですかね。

<名倉委員>

書き方の違いによって、すごく響いてくるような書き方ありますもんね。同じような内容かもしれないけど。

<並河市長>

はい。この読書系が色々続いている部分ですけど、もし、この部分で皆様方から他指摘ございましたらいかがでございましょう。落ち着いた状態で授業に入るという呼吸を整える要素と読書週間を付けるというのと両方なんですよね。

私としては、図書館司書によるお話の部屋開催っていうのがE小学校のところでは書いてあって、やっているのかなというふうに思ったのですが。学校に司書を付けてほしいというようなご要望が議会にもいただいたりとか、市民の方からも言われて、なかなかでも人件費的にしんどいところ、私としては、市の図書館は、全学校の図書館も自分のテリトリーだと思ってやっていただきたいという思いが強くございまして、これは、また積極的にやってもらえたらなと、もちろん図書館も人の限りがありますから…

<森継教育長>

そうは思いますけども・・・。

<並河市長>

あそこの完成度を高めることに熱心なのが結構ありますが、それだけでは、市全体に効果が行き渡らない。

<中嶋委員>

逆にですね、そのしたくても今まではやはり学校が聖域というか、簡単にいけなかつ

たかもしれないので、例えば E 小学校がもし校長先生なりから図書館長さんに教育委員会に相談されて、受けていただけるのであれば、他の学校でも広げていけるのかなと。

<森継教育長>

吉岡先生、E 小学校では今現にやっているのですか。

<事務局側 吉岡>

年に何回かと思いますが。

<中嶋委員>

実際に行ってるのですよね。

<事務局側 吉岡>

実際に行ってます。

<並河市長>

その際には図書室の状況だとか、その辺も見ながら気を配っていただけるとありがたいです。

<中嶋委員>

市の図書館の司書の方皆さん非常に親切な方ばかりですので、小さな事でもすごく熱心にしていただけますし、逆にそういう事が許されるのであれば、各小学校、中学校から要望が出てくるのではないかと。きっかけを作ればいいのかと思います。

<並河市長>

ありがとうございます。他いかがでございましょう。

<前川委員>

④でもよろしいですか。

<並河市長>

はい。

<前川委員>

体力のところに、「スポーツの町・天理」という強みという事で、天理大学との連携事業を挙げて下さっていると思いますが、これからやはりその連携を図るという事は、各学校で独自に進めていくのは難しいと思うので、教育委員会の方が中に入っていたか

ないことには、今この中で出てくるのはE小学校だけです、天理大学という表現が出てくるのは。もっともっとこれを広げていくのであれば、学校でそういう事をしなさいというよりは、教育委員会の方で仲介役というか仲立ちをしていただいて、進めていただいた方がいいのかなという感想です。

<並河市長>

添上高校なんかは、まだ他のところF小学校とかあったような気がするのですが。その辺が出来ているところと出来ていないところのまだばらつきがある感じですかね。

<事務局側 吉岡>

高校が入ってくれているところと、地域の中学校の指導者が入っているところがあります。F小学校は添上高校が近いので、添上高校の先生や生徒達が年何回かですけれども、体育の授業に入ってくれて、生徒が補助してくれるというのがありますし、スポーツテストを添上高校に行き、添上高校でスポーツテストをしています。当然そこでは事前にトレーニングの仕方や飛び方であったり投げ方をレクチャーしてもらって、やるというのをやっていますので、地域的な事もあるのかなと思います。二階堂高校が行ってくれているところもありますし、というところで通いやすいというのがありますけれども。

<並河市長>

それでいうとD小学校も柔道教室とかやっていますけど、特に書いていないですね。

<中嶋委員>

よろしいですか。

<並河市長>

はい。

<中嶋委員>

それについて私意見が有りまして、やはり「天理スポーツ」といっても、天理学園のスポーツの部門の「天理スポーツ」もあれば、小学校のスポーツ少年団や中学校のクラブ活動で頑張っている「天理スポーツ」もあると思うので、それを今は個人と個人の繋がりであったりとか、人と人との繋がりは今後も大切だと思いますが、それだけの頼りだけでなく、せっきく天理市内には二階堂高校、添上高校、天理高校もありますし、天理学園高校もありますし、それと天理大学もある。あとで中学校のところを見ましたら、K中学校の方が天理大学さんと連携して地域総合型のスポーツクラブを作るのを考えたいと書いておられるのですが、何かそういう機関が必要ではないかと。ま

して今回はというか去年からですかね、スポーツ振興課が教育委員会ではなくて、今くらし文化部の方についてますので、その辺は一般の方はなかなか分かりづらかったりしますので、何か行政の中なり、第三機関なりそういう窓口があって、一体的な天理でスポーツをしようと思う人が学生さんでも市民でも相談したり、交流できるような仕組みができればいいなど。例えば、奈良市ではそういう仕組みはないのですが、市民体育大会がこのゴールデンウィークに開催されていました。天理市だったら一般か中学校までというのが多いのですけども、高校の部でも市民体育大会がされています。そしたら、硬式の高校野球で奈良大学付属とか平城高校とか一条高校とかその学校が市民大会をやると、バスケットとかサッカーとかみんな。県立じゃないか私学じゃないかといってしまうと、離れてしまうが、地域の中にある学校ということで、すごく盛り上がりもありますし、親近感も湧くと、天理にはそういうものは今のところ高校の部というのはいですけども、なんらかそういう機関が出来て、こういう小学校の窓口になっていくとか、中学校の窓口になっていくとか、あるいは幼稚園の窓口になっていくとか、なっていくとお互いにいいのではないかと、コミュニティの考え方になっても地域と大学、高校とかの関係としていいのではないかと思います。

<並河市長>

その辺は、連携のものであれば、今おっしゃっている、総合型スポーツクラブですとか地域の大会とその辺は、意識しているところと、書いていないだけでやっているところはあるかもしれないですけども、一度それは各校にどんなもんですかと認識を合わせていくのは良いかもしれないですね。

<田中委員>

今言っているのは、市民体育大会のレベルのことですね。市民体育大会は、色々やっているわけですけど、

<中嶋委員>

はい、市民体育レベルです。日頃の交流ですね。

<並河市長>

あとは、交流もの以外に日々のこの活動のなかでどれだけ継続的にやっていくかというのも、今体力的には残念ながら県の中で下のほうなので、やっている方とやっていない方の落差が激しすぎて平均とったら下のほうになるというのが天理の現状なので、底上げをしっかりと図っていくというところからすると、継続的な部分が大事ななというふうに思っているのですが。

<中嶋委員>

しようと思った時に、相談できるようなところが直接のパイプがないとなかなかできにくい。

<並河市長>

今は、属人的な関係に頼って、お父さん同士だったりとか、知り合いがいる人は積極的にやるけれども、そのネットワークから外れる人が漏れるというそういうご指摘でもあったかなと思ったのですけれども。それをしっかり拾っていけるようにという事と他がかかでしょう。

うちはなぜ体力があまり上がらないのでしょうか。吉岡課長。

<事務局側 吉岡>

生活のスタイルも昔とずいぶん違うというものもあるのかと思いますし、今おっしゃったみたいに何か継続してやる。1年間かけてやり通すという事が大事かなと。時期的時期的にマラソンの時期になったらマラソンをしたりとか、縄跳びをしたりとかするけども、何かこう簡単なものでもいいので1年間、短い時間でもやり通していくような事もいるのかなと。

<並河市長>

それが良く出来ているところと、良く出来ていないところとあり、逆に言うと、良く出来ているところとか意識されている感じなのはどこですか。

<事務局側 吉岡>

C小学校なんかは、あえて自分のところでCオリンピックという名目でスポーツにチャレンジするような、やりたくなるような種目を設定して、休み時間とか朝の時間を使って子供達が外へ出て動くような環境設定はしています。それと同じように今年1年市内全部の小学校で「外遊びチャレンジ」を県がやってくれています。それに挑戦しようという事で一斉に始めているところで、それも一つの取組であるのかなと思っています。

<並河市長>

それはぜひ広めていただきたい。

<森継教育長>

1年しかやっていないというのが、体力テスト見てこの種目悪かったから、握力が悪かったから次の年は握力をやる、この年は走り幅跳びが悪かったから、走り幅跳びをやるというのではなく、決めたら5年間やるぐらいの気持ちでおらないといけない。それは、福井県では5年間やっているという報告があったので、何か5年間というやつを。

<並河市長>

それぞれの学校で全部統一でなくてもよいですが、子供が休み時間を使って自分でやりたいというような部分を起こさせるような工夫のなかで、これをひたすらやり続けると、特に中学以降どの種目をやるにしたってあんまり運動に自信が無い私が言うのもなんだけど、基礎的な部分をここでしっかり養っておくかどうか、大事な時期かなと思うので、それは意識して今回みていきたいですね。

<森継教育長>

「外遊びチャレンジ」という事で、色んな種目を設けて色んな種目をするなかで、子供も幼稚園から外で遊ぶ習慣作り。

<並河市長>

「外遊びチャレンジ」については、具体的にどんな事をやっているのでしょうか。幾つか書いてくれています。

<事務局側 吉岡>

県の方のホームページに記録に挑戦して、自分達がやった記録をアップするというふうになっているのですが、縄跳びでしたら8の字くぐりであったりとか、ボールパスを何回友達と交互にパスしたかとか、長縄をみんなで何回まわったかとか、そういう遊びの延長線上で体育の種目というのではなくて、そういうのが何個か、県のホームページ保健体育課の方に上がっています。それをチャレンジする事によって、自分達で記録に挑戦していい記録が出たら先生に言って、そこへアップしてもらおう。それでパソコンを見たら自分たちの記録が載っているという事で、また励みになっていくという取組です。

<並河市長>

ぜひ、その中でどこがどんな感じで取組んでいるかというのを情報共有しながら底上げを図っていただければと思いますし、創生について飛ぶと、放課後についても外遊びできる場を確保しようと今やろうとして、A小学校の取組だったりするので、放課後に外遊びできる場所がないというところについてのチャレンジでもあるという位置づけにさせていただけると有り難い。

(森継教育長が実際にタブレットで県のホームページを市長に見せる)

<並河市長>

これが。これについて記録が出たら、自分で申告するわけですか。

<森継教育長>

県のホームページに登録して。

<並河市長>

それで他の学校と競い合うみたいな。ちょっと具体的な取組をしっかりフォローしていきましょう。

<名倉委員>

C小学校、D小学校も④「年間を通した縄跳びチャレンジ」とか書いていまして、結構縄跳びでてるんですね。てっとり早く自分でも出来るし、継続も出来るし、割と小学校の時に休み時間とかずっと縄跳びしていた覚えがあるんです。一応縄跳び大会とかありましたし、持久力は養える、跳躍力、結ぶ力、まずは、一番簡単な何がいいかなという時に縄跳びひとつ入ると思うのですが、いかが思われますか。

<並河市長>

主要な要素だと思います。

<名倉委員>

縄跳びもうちょっと推進していかれたらいいのになと私は勝手に思っているわけなんです。

<並河市長>

すでに結構されていると思います。

<中嶋委員>

結構多いと思います。

<名倉委員>

すでにされていますが、もっと冬場だけではなくて年間を通してという感じで、天理の小学校で推進したらいいのではないかと考えているわけです。

<並河市長>

各校、園も含めて何を実際にやっているかというところをしっかりとみて、今出たキーワード「継続的にやる」ことと、子供自身の自発的に取組みたい仕組みをちゃんと作っているかどうかというのを、それぞれの校のやり方を見ながらまた、他の学校も参考に出来るような感じで提示していければなと思っています。

続いて他の点でいかがでございましょう。もしお気づきの点ございましたら。

<田中委員>

就学前教室の充実の部分でF小学校だけがスタートアップカリキュラムあるいはアプローチカリキュラムという文言があるんです。おそらくこれは、垣根を低くする時に出会いや学びだけでなく幼稚園で取組んだ内容が小学校のカリキュラムと一致しているかどうか。これが今求められているところだと思うのですが、これについてはF小学校だけなのかなと、できましたら幼小連携の中でスムーズに行くためのカリキュラム作りですね、その辺を幼稚園も学ばないとあかんし、小学校もアプローチしていかなあかんのとちがうかなと。

<森継教育長>

G小学校とG幼稚園において、県からスタートアップカリキュラムとアプローチカリキュラムの研究をやっているんです。まずは、この2校でやります。他の学校等にもこのようなものがあるということで校園長会で資料を提供させていただいています。来年度から、まず先行のやつがあって、それに習って進めていこうという事で、県もそれを全部広げていこうとしている。

<並河市長>

ぜひ、このスタートアップカリキュラムを学校と県の両方を意識しながら。

<田中委員>

そうですね。しなければならない。特に保育所が、ここが非常にまとめられているのですが、幼保の連携の中で小学校に結びついていく流れも作るべきではないか。

<並河市長>

それはおっしゃるとおりで、児童福祉課も来ていただいていたような。保育所の方もカリキュラムぜひあわせていきましょう。結局、幼稚園と保育所と分かれていても小学校行ったら一緒ですから。

<事務局側 吉本>

はい。

<並河市長>

他はいかがでしょうか。

<前川委員>

ちょっと文言で違和感があるのですが、3/10のD小学校の体力向上に向けた取組の推進の中で、天理っ子体力向上プランの推進というのがありますが、これは元々推進

するためにプランを作っているのですが、H小学校にもあるのですが、これはあえて必要なんでしょうか。

<並河市長>

天理っ子体力向上プランの推進、なんか具体的に提示してましたっけ。すいません、不勉強で。

<前川委員>

それと、D小学校の下の体験活動の推進の中に、天理市小学校音楽会の実施とあるのですが、これって表現的に私は違和感が、実施するのはD小学校ではないのところがかなと思います。

<並河市長>

それに参加することだと。

<前川委員>

それは下に参加と出てくるのですが。

<森継教育長>

区別が十分できていない。申し訳ない。

<前川委員>

ちょっと文言で違和感があるのと、D小学校の上の段のところの一番最後には、教育施設の芝生化推進と書いてありますが、この意向でよろしいのですね。

<並河市長>

これは、D小学校としてやりたい気があるという事。

<森継教育長>

たぶん違うと、そう思って私は理解しましたけど。D小学校に関しては。

<中嶋委員>

言い方悪いですけど、どっかの文言がそのまままきているのではないか。

<並河市長>

うちの目標ではなくて、こっちに掲げられている目標を書いてしまったという事ですかね。

<前川委員>

そんな気がするんですけどもね。

<並河市長>

それはちょっと誤解があれば。教育大綱を受けた我が校の目標を。それは認識を共有してもらえますか。

<森継教育長>

時間の余裕のないところで書いていたので。

<並河市長>

他はいかがでしょうか。

<中嶋委員>

2点ございまして、1ページの中1ギャップ解消のところ、G小学校は小中の情報交換を密にし、9年間を見通した指導と、言葉で入れていただいております。

あとC小学校とF小学校かな、C小学校には同じ中学校に通うことになる他小学校との交流、とか、F小学校にもよく似たことが書いてあると思うんですけど。これは、四葉プロジェクトをされているので、意識がすごくあると思うんです。J中学校区のかたまりで。皆さんもされてるのはされてると思うんですけども、先ほどから何回も言ってますように意識を強くするために各他のK中もL中も、M中学校の場合でしたらそのまま同級生で行くという形なんですけども、意識を強くしていただきたいなと思いますので、ここをクローズアップしていただきたいなというのが1点です。

あと4ページなんですけど、自己表現の向上というところがあります。C小学校に全学級でスピーチ指導というのが入ってまして、E小学校ではスピーチやディベート、パネルディスカッションなどの形態を学ぶと。I小学校においてはですね2つありまして、日直スピーチを実施ということと、複数学年と一緒にスピーチをする場を設定して、「全校スピーチ大会」につなげていく体制を整備ということで、これ実施されていると思うんです。M中学校においては、去年奈良県の青年の主張でも2人の生徒がたくさんの前で話したりとか、そういう小学校でされてた取り込みが実際中学校でも出たりしていると思うので、自己表現力の向上というのにいいと思いますので、クローズアップしていただきたいなと思いました。

<並河市長>

最初のご指摘の小中については、あれ他の中学校区で中学校の先生と小学校の先生とその辺の学習事案と合わせるとかなんかそういうのはやっていたりするんですか。

<森継教育長>

それ以前もやってるんですが昨年度もしてもらってます。

<並河市長>

そこは引き続いて我々もチェックして。

<森継教育長>

9年間見通したやつを書いていたどうか。

<並河市長>

じゃあそれをひとつ大きな要素として掲げましょう。

<中嶋委員>

先生方にもそういう認識を持っていただいて。

<並河市長>

先生方もやっぱりそれを共通で。

まあ申し送りとかは今までもやってもらっていると思うんですけども、最初のところから合わせるということと。

あと自己表現力の向上はこれうちの私は学力上の最重要課題というか、一番点数が低いからということなんですけども。

吉岡課長、どんなもんでしょうか。

<事務局側 吉岡>

各学校とも日頃生活の中で帰りの会日直のスピーチであったりとか、そういうのは見えてると思うんです。でまあ全校体制でボーンと出しているところはなかなか少ないのかなあという風に思います。だからまったく他の学校がやってないんじゃなくて、日頃の生活の中で、今日一日の生活の中で感じたこととか、あるいは昨日家でやったこんなことがあったよとか、順番でスピーチしていったりというような取り組みというのはやっているかと思います。ただ、I小学校も今年はスピーチ今回はスピーチ大会すんねんっていうのも看板にあげていますので、それに向かって一生懸命取り組み進めています。

<並河市長>

みんなが参加するような形なのか、クラスの中から選ばれていってみたい感じなのか。

<事務局側 吉岡>

みんなが参加できるような形をとっているかと思います。

<並河市長>

I 小学校は人数もコンパクトだからやりやすいのかなと思います

この日直スピーチは必ず全員がやるんでしょうから、ぜひその、それぞれで得意な子がますます得意になっていくというよりは、必ずしもそういう積極的に「はい」というタイプではないけれども、そういう発言の機会をどんどん持っていってもらうような形での底上げの方を重視していただきたいなあという風に思っております。

他何が有効なんですかね、自己表現力の点数を上げるには。

<森継教育長>

(テストの) 問題を見ていただいていますか。

<並河市長>

問題自体は見てないですねえ。結果は見てますけど。

<森継教育長>

問題慣れっていうのは必要だと思うんですよ、問題を練習してはいけませんと文科省が言ってるんですけども、問題の長い文章読んで、そのあとに答えるっていうやつ、ああいう試験あんまり受け慣れてないと思うんです天理の子は。福井の子は練習してます。

<並河市長>

でもそれ練習のためだけって、結構将来重要な能力です。

<中嶋委員>

点数も大事だと思うんですけど、点数にこだわりすぎずにですね。今課長おっしゃっていただいた I 小学校の場合は多分ブームというか全校でやろうっていうすごいいい雰囲気です。それは悪いことではないと思うんですけど、やっぱりその学級単位でもいいですし、ちっちゃな単位でもいいので、一生懸命話したら人が聞いてくれるという中で自己肯定感を育むことと、それと聞く方もさえぎらずに最後まで聞くんだという姿勢を持つことの2つができると思うんで、そういう機会をわざわざすると、そんな時間ないってことになりかねないんですけど、普段あるホームルームとかいろんな中で意識していただくことがもし全校的に全市的にあたりまえに、強く意識していただくだけでも違うんじゃないかなと。

<森継教育長>

ちょっとずれますけど、国語の力をまずつけてもらうということで、国語の新しい指

導主事に来ていただいて、国語教育の授業の中についても検討してみようということ。国語教育で、立ち上げて新しい取組していきますのでね。

読んで書いて話せるということにつながっていきます。ひとまず、スピーチコンテストみたいなものもやってもらおうと思います。

<並河市長>

あの、語弊があったかもしれませんが、私も別に点数にこだわっている趣旨ではなくて。ただおしなべて例年、全市的に低いというのがこれはもう傾向として否定しがたい、I 小学校がやや例外で、C 小学校もがんばっていただいていた部分もあったかなと思いますが、全体的にいうと差がもう一番開いているんですね。

<森継教育長>

50字から書くところの白紙が多いんですよ。できないのか、意欲がないのか、まあ意欲がないのはできないと言われてますけどもね、してるかしてないのか、なんとも言えませんが。

<並河市長>

社会に出ようといろんなところに行こうとせっかく理解してたととしても自分自身の言葉で噛み砕いて言えないと、その子ども自身の能力がせっかくわかってることも発揮されないので、非常にもったいない。

<森継教育長>

いや、そういうことではなく、あのテストでね、ほんとに測れてるのかっていうことなんです。

<並河市長>

あ、測れてないかもしれないという。

<森継教育長>

数学は測れないです。あの問題では。

<並河市長>

数学は測れない。

<森継教育長>

測れない。僕は思ってます。あれは国語の問題です。

<名倉委員>

あ、すみません。

試験では測れてないっておっしゃるのはすごくよくわかりますが、目安になっていることは確かですよ。

ですのでそういう風なとらえ方をしてあくまでの目安でそのだめなところ伸ばしていくのに、ひとつ普通の授業でもそうやと思うんですけども、やっぱり苦手な子がちょっと発言するだけでもドキドキするし、人の前で答えをいうときもそうです。先生にどう思ってる？って聞かれたとき。そういう発言から小さなことからちょっと勇気がわいてきたり、自己肯定感につながったり、そういう毎日の積み重ねも大事かなと思います。ですので、先生の持っていく方も、普段は気をつけておられると思うんですが普段あまりしゃべれへんような子に上手に話すような持っていく方とかそういうのも先生の力にもよるんですが、そういう進め方っていうのも大事かなと思っています。

<中嶋委員>

授業参観なんか行くとそれがすごい上手な先生もやっぱりおられますし、それもいいと思いますし。

<田中委員>

天理市の青少年健全育成で、いわゆるスピーチをこの10月フォーラムでしてくれるとか。でそこで結び付けていくような、各学校へ今年だけはお願い行ってはるけども、各学校でそういう取り組みをしてもらおうような働きかけがこれから始まっていくと思うんで、これも連動したらどうかなとは思いますが。

<並河市長>

まあそういった取組の部分と、あと⑥と⑦を連携させた形でちょっと持っていくというのをひとつ掲げて、これはまた学校へ残りを教育長の方からしっかりと伝えていただいて、まあ自分が表現したことがみなさんに受け入れられるというような機会をしっかりと作っていくんだと、まあそういった形でいけるかなと思います。

それはまあ、⑧にもつながっていくのかもしれませんが、いかがですか。⑧⑨はちょっと要素として異なるんですが、皆様方からなにかご意見がございましたら。

<並河市長>

各校の取組としてはどうですか。あるいはうちの教育総合センターとか、その辺の連携を書いているところもあります。

<森継教育長>

授業中にね、発言しにくかった子が発言したりそういうところから、自己表現力、自

己肯定感をあげることもふまえて考えていくのもひとつかなど。
あとは欠席が多い子については。

<並河市長>

⑧いじめアンケートは全校でやってるんですかね。

<事務局側 吉岡>

年 2 回やってます。

<並河市長>

そこで危険な兆候が出てきてる状況でしょうか。

<事務局側 吉岡>

子どもが中でいじめられてるとか、というのはいくつか出てくるだろうと思いますが、それをひとつひとつ丁寧に聞き取っていく中で、確認をしてるところですが、重大なところまでは至ってません。

<並河市長>

サインを見落とさないっていうような体制が、全市的にどれだけ取れてるかというのも必須なので、引き続きお願いしたい。

⑨についてはそうすると、⑥、⑦、⑨この辺を連携した形でみていきましょうというので、よろしいですか？

では、次の特別支援教室、あるいは青少年健全育成、このあたりについて、みなさま、なにか気になられた点とかございますか。

<森継教育長>

特別支援教育の中でなんですけども、スクールサポーターの方も入れていただいているので、効果の検証をしっかりしたいと思ってます。

<並河市長>

ですからスクールサポーター、今回予算的にも増員させてもらったというのがありますので、今年は特にその状況を見ていくのが掲げたいなあとという風に思います。

ご家庭との連携はどんなものでしょうか。

学校の方で全部やりきるっていうのは限界がある。

<森継教育長>

そりゃ家庭とも連携していかなければならないんでね。

D小学校で教育相談ウィークというのがあって、これは注目しています。

<事務局側 吉岡>

教育相談ウィーク、私もわからないので聞いてみました。

どこの学校でも年に1回個人懇談はしてると。中学校は三者懇談とかいろいろあるわけですけど、小学校の場合は年に1回個人懇談する。で、家庭訪問もするっていうのが、直接担任と保護者との話する場なんですけども、D小学校では7月から個人懇談を予定しているがその後はないとのこと。そこで、2学期3学期にもそういう希望者だけですが、個人懇談をする機会として、一週間教育相談ウィークというので銘打ってやっ
てるものです。

<並河市長>

利用状況はどうですか。

<事務局側 吉岡>

3割から4割ぐらいの利用状況やという風に聞いています。

<並河市長>

それは他校でも取り入れた方がよさそうな感じですか。

<事務局側 吉岡>

随時必要に応じたら各学校でそのときそのときにやってるかと思えますし、日々申し込みがあれば拒むこともないはずなんで、まあこうやって大々的にこの時期に一斉的に全校でやります、とやってるのは、D小学校。まあ人数が多いっていうのもありますけども。

<並河市長>

随時自分から手を挙げて相談に行こうと思うと結構親御さんの中でそういった問題意識を持つてはる方ですよ。

<事務局側 吉岡>

なにかまあ困った課題がなければ行きませんがね。

<並河市長>

ですからあえてそこには行かないけどほんとはしっかり相談した方がいいだろうっていうなところをどうやって拾い出すかっていうようなところは、どうですか。

<事務局側 吉岡>

学校が課題と思っていることとご家庭で思ってることとで、ギャップがあったりします。

だからこういう顔を合わせてお話するような機会を持つことによってね、その辺のところもお互いのギャップっていうのがなくなっていくのかなあという気もしますけども。

<並河市長>

そしたら親御さんの中でももちろん、やはり勤務条件も違えば、どれだけ細かくみられるかっていう状況も違えば、学校側が特別な対応をするという風に思っても、ご家庭の方では全然そんな認識がないとか、そういうこともありますでしょう。それをどうつないでいくかっていうところからしないと、先生方の特にその人員配置の部分で、ここでの今、結局負担がおおいにあるんだというのが常に出てくる話ですね。教育現場の方と会話した場合に。

<事務局側 吉岡>

そのアプローチの仕方が非常に難しいわけで、こういうような形で全校をあげてやれば、そういうきっかけにはなるのかなあという風に思います。

<並河市長>

この辺はぜひ見て、本当にどこまで効果があるのか見ていきながらもしよい取り組みなんであれば、他の校にも実証化していただけるとありがたいなあと思います。

小学校で終わってしまいそんな感じもするのですけれども。他の問題についてはいかがでございましょうか。

ICTに関しては、タブレットとしても利用できる形のパソコン導入ということをやっているんですね。

<森継教育長>

はい。

<並河市長>

その結果については継続して検証してくということと、I小学校なんか重点的にこうやっていこうということなんで、今年度特にしっかり見ていきたいなあという風に思います。

先生によってこれ全然馴染みが違う。得意な先生と、あんまり得意でないという先生がいる中で、どうやっていったらいいですか。

<森継教育長>

得意、得意じゃないっていうか、授業が上手な人ほどうまく使えるっていうことを聞いてるんです。

だから、コンピューターがうまく使えるかそうでないかでなくって授業の中にアクセントとして活かすっていう方法を研究しておられる方がいて、そういう方向で、授業が上手な人にまず研究してもらおうかなって、コンピューターが上手、得意ではなくて。

<並河市長>

そういう良い事例を各校で共有できるような体制っていうのはとれてますか。

今年のですからせっかくハードの整備のところでやったんで、全体的にレベルアップを図っていくためには、特にうまい具合に取り入れてらっしゃるところ、どういう風に使っているのかっていう事例をぜひ他の校に共有するような形にしてもらいたい。

<森継教育長>

事例がない。

<並河市長>

事例が市内にあんまりない。

<森継教育長>

研究してくれるような人を探す。

<並河市長>

それは今探している？

市の中で、この人は特によさそうっていう人を探しているのですか。

<森継教育長>

自分がこうしてあげようという人が、僕が思ってるのは、おられないかなっていう感じで、探している。

<並河市長>

ちょっと上半期中には示していただいて。じゃないとせっかく配布した機材が使いこなされないというのは非常にもったいない。

<名倉委員>

先生によって全然スキル違うと思いますし、まあまあその推薦していただいたらどうですか。

<森継教育長>

だから、スキルなくってもできるってね、研究者がおっしゃっているんです。スキルがなくても使える。ICT の授業は、ICT のスキルあって授業のスキルない人が一番怖いっていう。

<名倉委員>

あー、なるほど。そのコンピューターに詳しくても授業のスキルがない人の方が怖いっていうのもわかるんですけども、でも元々それをうまいこと使いこなしてる人ってのはいるから、そういう人を発掘してみなさんに見てもらおうっていうのは。

<並河市長>

これは特に誰の担任になるかで最も落差が開きやすいであろうと思うので、それをぜひ埋める取組をお願いしたい。

<中嶋委員>

タブレットを使って何をするかっていうことが大事だと思うんですね。

一番早い段階で導入してると思いますけど、佐賀県の武雄市なんかは、民間の塾と連携して、プログラムを作って、そこを見るとかをやっていると思うんですね。そういう手法がいいんだったら、今さっきの会議でもありましたけど、システムとして考えないといけないのかもしれないし、そうじゃなくて、今の教育長のお話だったら、今までだったら紙とかで見せてたけども、いろんなサイトを見せるから、それで、理科の授業なのか、社会の授業かわかりませんが、その程度の使い方でも、すごいプラスになるのかっていうことを、実際されてる方に聞くなり、いうことで引き出しを増やしていかないと、いいんだからいいんだからって言っても、天理市が取り込みたい良さは何かということをまずつかんで。

<並河市長>

どういう中で使うのか、副教材的なものなのかそれとも子どもが自発的に情報にアクセスする部分を重視するのか、その辺の同じ ICT を使うにも切り口は変わってくるかなと思いますので、それぞれの切り口ごとに検討いただければ。

<中嶋委員>

スカイプ事業とかいうことをされておられるところは、そういう切り口で言ってもこれも ICT になるんでしょう。

<並河市長>

I 小学校については少人数校の問題点というか弱点を克服するところでこれを使おう

ってというのが、まあ創生の部分では今掲げている要素です。

<中嶋委員>

D小学校なんか見るとですね、やっぱりハードが今回のこの新校舎によって、随分そろいましたので、D小学校にはD小学校区にあった ICT の導入の仕方があるでしょうし、I小学校はI小学校であるんでしょうし、そうじゃないところはそうじゃないところの段階があると思いますので、それをこう、さっきのスタートプログラムでないですけど、どこか先進事例をつくっていったり積み上げていくということになるのが現実的かなと、感じますね。

<田中委員>

やっぱり授業力をアップしないと、どんなええもの持ってきても、子どもには落ちないんですよ。したがって、やっぱり並行して授業力を高めるような中身を持っていかないと、活きに使えるんじゃないかなって今先生の話聞きながら思っていました。

<並河市長>

教育委員会事務局の中でこの ICT についてみなさんと議論とか。課長、いかが。

<事務局側 吉岡>

各校で、年間何回かは授業の中に ICT を取り入れた授業を公開してくれということには言っています。各校ごとに講師招いて研修する予定をたててますけれども、今先ほどおっしゃったように、ICT を使って、何を子どもに教えるというところをきちっとしないと。ICT を教えるんじゃないんですね、そこをはき違えたらあかんというところも大事な部分かな、と。先ほど教育長も言われたように、授業力があるものは、そこがはっきりわかるってところで、まずやっぱりその辺のところをこの授業の中のどこに ICT をどういうふうに使ったら子どもがより活きるのか。そこで時間が短縮され、今まで黒板に書いてるのが、見せて、その空いた時間を何に使うのかということまで、教師がきちっとわからないと、ダメやということは言われているので、その辺の研修からしていかないといけないと思います。ただ単に見せたらいいわっていうのではだめだという気がします。

<並河市長>

そうすると、この今年度末にはこの(5)②の各校の中身がもっと書き込まれて充実されてるはずなので、そういうことで今年は意識を持ってそういうなところをやっていただきたい。

次にコミュニティづくり。ここは、先ほどから、結構ご指摘いただいたところですが、いかがでございましょうか。

コミュニティづくりは、創生のところで非常に関わっていく部分ではあるんですけども、今年一年間かけて流れをつくっていくということで、よろしいですね、特にA小学校とD小学校の多目的室の開放という部分については。

創生の重要案件に数えているという、やはりある程度は想定しまして、想像以上に特にボランティアで安全関係やっていたいただいた方のアレルギーというか、警戒感は強かった中で、どうしたらスムーズに安全性を確保しながら、地域の人が入っていけるんだっていうところを、この2校で作っていくことが大事だなあと考えておりますので。

<森継教育長>

午前中にファシリティの会議でいろんな施設を学校に入れていくっていうそういう視点も大事やと聞かせてもらったんです。郵便局とかコンビニとかもおっしゃっておられました。で、実際にあるんですか。

<並河市長>

公民館と一緒にという事例はよく聞きますけども、郵便局とか店舗とまでは、私はあんまりまだ知らないですけども。

ただそうしていった方が、複合施設の方が予算がそこにつけていけますんで、ただ、なかなか民間のビジネスとまでいくと一番ハードルが高いかなと、我々が目指しているのはそこまでというか地域の中でしっかりやっというなかで、私の認識ではF小学校が最近非常にがんばっていただいているという認識なんですけど、課長、いかが。本の整理などをやってもらってるとか。

<事務局側 吉岡>

A小学校やD小学校みたいにオープンで来てくださってというのではないですけど、各校でそういうボランティアの人を入れるっていうのは昔のこと思ったら随分門戸が開かれてると思いますので、各校の実状にあった交流の仕方なりコミュニティづくりを進めてるのかなあという風に思います。

<並河市長>

ここはしっかりやっていきたいという気持ちなので、よろしくお願ひしたいと思いません。

他いかがでございましょうか。環境づくり、人権教育国際交流等、ずっと続いてますけども、この中でございすれば。

I小学校のカッコで囲っていただけてますけど、何をするんでしょう、国際交流について。

<森継教育長>

③のやつですね、オンライン英会話ということで Skype を利用した授業ということで、ネイティブの東京ベネッセにおられるネイティブの方に、英会話の授業してもらおうというもの。来週火曜日から進めていきます。

<並河市長>

どのくらいの頻度で？

<事務局側 吉岡>

年に20回で、5、6年生だけ20回で3、4年生はこれから増やしてもらうように検討しています。

<並河市長>

どんな感じでやってるかとかを、ぜひ地域のみなさんにも、うちの小学校ではそういうのやっているっていうのを知っていただけるように、できたら参観なんかと組み合わせさせていただきたいですし、発信だったり、あるいは議会へのご紹介というところをよろしくお願いします。

<森継教育長>

1台に何人ですか。

<事務局側 吉岡>

3人と4人のグループです。

<森継教育長>

大きいディスプレイでなくて通常のコンピューターでやっています。

<並河市長>

結局いろいろお話を伺っていると、小学校までしかいきつかなかったんですが、事務局、どうしたらいいでしょうか。

おそらく小学校で出た課題と、極端に、中学校で出る要素っていうのは違わないのかなあとと思いますけども、中学校固有の部分がありますか、どうですか。あるいは小学校との連携と今出てきたような問題意識のところを特に囲って見ていくというような形であれば、またお気づきの点があればみなさんにお伺いするというような形でもいいかなと思いますけども、ただ、当然年齢も違いますし、その次のステップにつながっていく部分も違いますので、いかがですか。

三喜田さんが一番読んでると思うんですが。

<事務局 三喜田>

中学校においては、中学校だけ単独である項目っていうのがないので、先ほど市長がおっしゃったような形で、うちでまとめさせていただくことがお許しいただけるのであれば、その方向でさせていただきたいなと思いますけれども、いかがでしょう。

<中嶋委員>

逆に小学校のところでも小中連携で出たりしてるのが、お互い通じているところもありますので。

<並河市長>

中学校のところで、ですから書いててこれがついていう取り組みがあれば。ビブリオバトルだとか、読書郵便だとかそういうキーワードがこれは小学校でもいけるのかなあと思いますし、あるいはより具体的に英検3級までをとっていくみたいなことをJ中学校なんかは掲げられてたりとかします。

特にでは小学校で出たコメントのところを念頭に入れてしっかりやっていくということと、あれですね、小中のつながりのところを意識するということで。

またご質問ございましたらそれは随時やっていただくという形で、よろしいですか。

若干乱暴ではございますが、その他の部分ではいかがでしょう。重なってる部分も多いですけども。就学前教育の部分なんかは。その他の部分で特に見ないといけないところってどこでしょう。

これは課ごとになっているのは各校から出してもらったものじゃないけど、うちの原課の中から出てきたものということですか。

<事務局 三喜田>

はい。

<並河市長>

ですからこれはうちの主管課としてはこのこと大事にしているっていうことですね。それを各校にフィードバックするのはどうしていったらいいですか。特に教育総合センターの方ではいっぱい書いていただいているんですけど。これをみなさんと共有する機会というのはどういう風に作られるんでしょうか。各方面の方と。教育長。

<森継教育長>

学校では実際にやってくれていることですので、十分わかっておられると思う。

<並河市長>

児童福祉がちゃんとそっちの先ほどの就学前のところ、平仄が合っているかという

のは、事務局と児童福祉課のなかでも意識してみていただきたいと思います。

文化財課は、思いの丈をいっぱい書いていただいています、各課に共有されているんですよ。

絶対それはちゃんとせつかく書いていただいてまとめていただいているので、各校園も出して終わりというよりは、それをみなさんに共有してもらいながら取り入れてもらおうというのが今回の取りまとめの表ですから、お願いしたいと思います。よろしゅうございますか、それ以外の点で。

創生の部分は今までででだいたい拾ったかなあというように思っておるのと、総合型スポーツクラブとかそのあたりについては先ほども入れていただきました。

<中嶋委員>

ちょっと意見ですけれどもよろしいですか。

これ今年 28 年度実施ということで今準備のアンケートの回答を出していただいていると思うんですけど、今後継続していくときに、この市役所の総合会議の中心から各小学校中学校に誰が球を投げて誰が受けるのかっていうところが、ある程度必要やと思うんです。でないと、なんとなく校長先生が聞かれてる、園長先生が聞かれてる、あるいは教頭先生主任先生がお忙しい中時間削ってこれを書いているとかでは、負担にしかならないかなと思います。負担でないといったらそれはうそになりますけど、労力が増えてもやっぱり子どもたちへプラスの影響があるということでみんな頑張っていけるんだと思うので、走りながらでもいいのでやっていった方がいい。それは各学校とか幼稚園によって事情が違うかもしれませんが、そのサイクルをしないと、やっぱりよくあるアンケートのためのアンケートとか、教育大綱の報告のための教育大綱であってはいけないと思うので、やっぱり現場が円滑に行くことが一番大事だと思いますし、その辺も、今じゃあこうすればっていうのはないわけなんですけれども、そこは時間もかけながら、思ったように出てこなくても、現場ではしっかりやっていただいていることを信じた中で、信頼関係を持った中でやっぱり時間をかけていかないといけないのかなあと思います。

<並河市長>

いったんですからあれですね、次の6月の校園長会でこれを共有されるってことでよろしいですね。

その際に今日の総合教育会議の中で、特に意見が出たり着眼したポイントも合わせてフィードバックしてもらってことで、よろしいですね。

今取りまとめは総合政策の方でやってるのかもしれないですけども、校園長会に総合政策課の職員は出ていくのですか。

<事務局 加藤>

それは、考えておりません。

<並河市長>

それは、学校教育課の方としっかりと認識を合わせて、また各校長先生だけでなく、各学校の中に返って行ったときにその中で注目されたポイントが何なのかっていうところも、この総合教育会議で示していただけるとありがたい。この場では意見が出たけれども、学校現場のみなさん同士で会話をしたら、また違う、ここのところをもっと着目してほしいっていうところもきっと出てくるだろうというふうに思うので、それをまた我々は返してもらうことも大事ではないかなあというふうに思っております。

<中嶋委員>

今のお話で、先生方に対しての窓口は、教育委員会、学校教育課、それでいいかなあと思うんですけども、それが絶対行かないといけないとかではなくて、行ってもいいよっていうのでいったら、総合政策の方もオプザーブしていただいたりとかですね、やっぱり文字で先生方の上がってきているものだけじゃなくて、ニュアンスもですね、やる気がないのではなくて実際こういう風な形でやるんですよっていうニュアンスの場合もあると思いますし、そこは時間が許せばっていうことになるとは思んですけど。垣根を低くしていただきたい。

<並河市長>

一義的に説明するのは学校教育課で、総合政策課がその場に行くこと自体は全然問題ないですよ。

<中嶋委員>

この教育総合会議というものが設けられた趣旨からいうとまったく問題ないと思います。

<田中委員>

全然問題ないと思うんですが、先ほども出てるように、今出てきた内容が学校の現状・実態、地域の願い、いろいろありますよね。だから必ずトップダウンでそうするんじゃないという意味で、市長が今、先生方どんな意見が出てくるのかということ把握されるために行かれるのはいいと思います。

<並河市長>

そういうことですね。空気感を見るためにというような。

<田中委員>

だから逆に先生方から出てくる意見をもっと聞いてくれた方が、ここが聞いてもらった方が、もっと先生方意欲持っていけるんじゃないかなあと。我々が見えてない実態がきっとあるはずですから。

<並河市長>

そういうご意見ですが、課長いかが。

<事務局 加藤>

はい、そういうことであれば。全然行きたくないとかそういうのではございませんでして。はい、私どもの方が、校園長会に参加させていただくことそのものが特に想定をしていたわけではございませんでしたので。

<並河市長>

オブザーバー的にそのやりとりだったりっていうのを見ていただいた方が、その表にも血肉が通ってくるというか。

<事務局 加藤>

はい、やぶさかではございません。

<事務局 山中>

多分校園長会に出たことがありませんので、どんなもんかの認識ができてませんので。

<並河市長>

まあ、岡本次長みたいに急にそっちにぴゅっと行く場合だってあるわけだから、そんなにそこは気にしなくても、我々みんなチームで。局長もそうですから。

<中嶋委員>

我々委員もですね、行こうとは思いませんけども、やっぱり校園長会も教頭先生主任者先生の会議も知らないんですね。やっぱり知らないところでの話っていう、まあ立場が違うと思うんですけど。まして事務的なことをしていただくのであれば、ニュアンスであるとか、どういう表情でそういう意見を言っておられるとかいうのも聞いていただけたら、悪いことではないのかなと。

<並河市長>

まあ、あんまり全部しゃしゃり出ると校園長会のみなさんやりづらいついていう部分も出てくるのかもしれませんが。教育長どうですか。

<森継教育長>

僕いつも一方的に話して帰ってくるんで、話し合いになるのかな。

<並河市長>

この一覧表を見て、各校・園が今後どういう風に取り扱っていくのかっていうのをまず教委の方で話してもらって、その上で話を進めていったらどうですか。

<中嶋委員>

まず話し合っていたかどうかというところでしょうか。

<並河市長>

各校園に分厚い一覧表が配られて、気になる人はパラパラ見てくださってという形になっても意味がない。

少なくとも校園長会の中でも、お互いディスカッションするような機会っていうのを設けていただきたい。

<森継教育長>

ディスカッションですか・・・。

ポイント絞ったものについてはできるでしょうけど、この一覧表を渡してというのは・・・。

<並河市長>

全部やったらすごく長くなると思うんです。ここの中で、特に継続的に見ていこうというふうに思った部分だったりを、現場に投げて、現場から特に自分たちとして、他の校園の動きも見たうえで、こういうところやっていきたいというような形で、各校園長会という横串をさした組織なのですから、各小学校なり中学校なりではどういう風に取り扱っていくのかっていう部分がないと、渡して終わりになってしまう。

<森継教育長>

この一覧表については、各校は、僕思った以上にたくさん書いてくれました。で、今年度の取り組みってしたら来年何書くのかなあと思うぐらいね、もう3年間全部書いてあると思うんですよ。

<並河市長>

まあでも継続的にしっかりやっていくということなんでしょうね。

<森継教育長>

だから各校での共通の部分みたいなものと、先ほどの議論の中でこんなしてほしいというやつを入れていただいて、また書いてもらうことになりますね。で学校の具体的なものは何ですかというものをね、書いてもらったらどうかなと思うんですけど。

<並河市長>

その投げ返しの中で向こうから具体的な部分を引き出していくと。

<森継教育長>

そしたらこれ何やったんやと言われますけどもね。

<並河市長>

そういう進め方ですね。

<森継教育長>

どうかなと。

<並河市長>

いったんじゃあ今日は、時間もオーバーしましたので、今日に関してはですからみなさま方からいろいろ着眼したいポイントをご指摘いただいたということで。で、次回までに、現場とのどういう形でコミュニケーションしていくかっていうところを。そこはまずあれですね、両課で話してもらおうということによろしいですか。

田中先生そんなところでよろしいでしょうか。

<田中委員>

いいと思います。最後に思うのは、現場が意識せえへん限りなんぼここで話しても駄目だと思うんです。

<並河市長>

おっしゃる通りです。

<田中委員>

したがって、校園長会においては、講師ごとに分かれてお話をされるんです。そのときに、お互いの小学校は小学校で見はったらいいと思いますわ。でそのときに今教育長ここで話した内容を一応定義しといて、で我々何ができるのかをあるいはこれをどうしたらいいのかを、やっぱり聞き取ったらいい、その聞き取りだけは、一緒に行かはったら雰囲気も感じられるんじゃないかと。

中学校は中学校で話しはるところに誰か行って聞き取りをするという風に流れを作る

と、もっと活きに発想できると思います。今後ともよろしくお願いします。

<並河市長>

では今のご意見を参考に、進め方を、よろしくお願いします。

じゃあ事務局にお返しします。

<事務局 三喜田>

最後ちょっと、時間オーバーしておりますけれども、今後のスケジュールについて、ご説明させていただきます。

前回会議のときにもお話が出たんですけれども、とりあえず年度内に3回、今回の当初と、中間、そして最終の報告が現場から挙げていただくということになっておりますので、その報告が挙げた時点ですでね、この総合教育会議を開催させていただきたいと思っております。

それで教育委員会さんの方と話を詰めさせていただく中でですね、一応、目安として、中間の総合教育会議は11月の初旬から中旬ごろ、そして最終につきましては、2月の下旬ごろに開催したいと考えております。よろしくお願いたします。以上です。

<森継教育長>

これね、中間報告っていうのね、これ今書いたやつについて書くっていうのがね、かなり難しいと思うんですよ、で、もう少し具体的にどんなやつやっていっていかってやつね、まあ書き直して言ったら変ですけど。

<並河市長>

今日出た意見で特に見ていきたいところについて、各校どんな風にやってるとか、他を見た上でこういう風な形でやろうと思ったとか、その辺の、もう一度若干取りまとめするっていうような形かなと思ったんですけども。

<中嶋委員>

ちょっと提案というか、今各考え挙げているのがどういう書式とかわからないんですけど、この中間は今のみなさんのお話のニュアンスでもそうやと思うんですけど、もっとこうフリーなというか簡易な、事細かな分厚い報告書は最終になったらいいと思うので、その時点で困ってはることとかちょっと、そういう風などうでしょう。書きやすいものにしたい方が、現場もその方がいいかも。

<並河市長>

ちょっといったん話させていただいて、これを自動的に配ってこれに上書きしてくださいっていう形とは多分違うんだなという風には思います。

<事務局 加藤>

元々想定させていただいていたのが今日のこの会議ではですね、ほぼ 10 項目ぐらいに絞れたらなあというのが当初ございまして、その 10 項目に関して集中して進捗なりをみなさんに議論していただければ、せっかくこの横並びで各学校幼稚園を並べさせていただいてますので、特にここの幼稚園、ここの学校、あ、こんないいことしてるんですよねっていうのを、他の学校にも広げていっていただくような、そういう議論をしていただくために、10 項目程度絞らせていただいた中で、より深めていただけるような、進捗の管理をしたいなっていうのをそもそも考えてたところなんです。

<中嶋委員>

その中間っていうことなんですね。

<事務局 加藤>

その中間と考えておりましたので。ただ今日のいろいろ議論いただいた中でやはりかなりボリュームがある中ですべて絞っていくっていうのは非常にしんどいかなっていうのは感じたところでして、市長もおっしゃっていただいたように次回 11 月ぐらいに中間とお話させていただいたんですけれども、今日の議論をもちまして、どういう風にもう一度進めていくかっていうのを整理したうえで、もう一度議論といいますか。

<並河市長>

それがいいと思います。学校サイドの反応とかっていうところもふまえてどういう形がいいのかっていうのは見ていただけたら。

<事務局 加藤>

でもう一つ提案いただきましたその校園長会のお話もございまして、また教育委員会さんの方と、市長部局の方とお話させていただいて、どういう進め方がいいのかなっていうのをもう一度整理させていただいた上で諮らせていただければなど、いう風に考えております。

<並河市長>

まあ決めうちで各論これ関心もたれたなっていうところバーンとあったやつもあれば、ちょっとバクツとした中だけの流れとして注目するっていうところと、両方あったかなと思います。

長時間、ありがとうございました。

◇閉会

<事務局 加藤>

それでは、いろいろご議論いただきましてありがとうございました。今日の議論をふまえて、次回に諮らせていただきたいと思いますので、またご都合の方、お忙しいと思いますが、よろしく願いいたします。これで閉会させていただきます。ありがとうございました。

(17 : 15 終了)